

2013年3月9日 土

会場：東洋大学井上円了ホール

開場12時 / 開会13時 / 参加費無料

都営地下鉄三田線「白山」駅(A3出口)から徒歩5分
東京メトロ南北線「本駒込」駅(1番出口)から徒歩5分
都営地下鉄三田線「千石」駅(A1出口)から徒歩8分

天命は なお 反転する

人間再生のための環境
― 荒川修作 + マドリン・ギンズとともに

プログラム

映画上映&トーク

『死なない子供、荒川修作』

山岡信貴監督による作品解説つき

シンポジウム

『天命はなお反転する 人間再生へ』

パネリスト

河本英夫 (東洋大学文学部教授)

花村誠一 (東京福祉大学福祉学部教授)

池上高志 (東京大学大学院教授)

映像舞台作品上演

『モア・ディベロプメント―追悼人見眞理』

お申込み・お問合せ

東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

MAIL: ml.tieph-office@toyo.jp TEL: 03-3945-7534

主催 「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ (TIEPh)

共催 神経現象学リハビリテーション総合研究センター

ABRF, Inc. (荒川+ギンズ東京事務所)

<http://tieph.toyo.ac.jp/>



東洋大学



TIEPh
Transdisciplinary Initiative for Eco-Philosophy



ABRF, Inc.

PHOTO by Meguro Museum of Art, Tokyo + Sumiko Okagawa

天命はなお反転する

人間再生のための環境 - 荒川修作 + マドリン・ギンズとともに

2013年3月9日(土)

会場:東洋大学 井上円了ホール

開場12時 / 開会13時 / 参加費無料

3.11を生き抜いた後の来るべき人間(-有機体)はどのような環境で生き、何を語るのか。芸術、哲学、生命科学、精神医学、発達科学、すべての未来はどこへ向かうのか。荒川修作+マドリン・ギンズとともに三人の提題者が、これらの問いを人間再生に向けた環境設定の問いとして引き受ける。

プログラム ※時間はすべて予定です

13:10 開会のことば

山田利明 (東洋大学、TIEPhセンター長)

13:15 映画上映&トーク

『死なない子供、荒川修作』 山岡信貴監督による作品解説つき



2005年に出現した極彩色の奇怪な建築物「三鷹天命反転住宅」。ここに住むと身体の潜在能力が引き出され、人間は死ななくなるという。この建物を創り上げた荒川修作という男の言葉から浮かび上がってくる、あらゆる知性が想像しえなかった衝撃の生命論が明らかにされる。
(2010年/カラー80分/制作:リタピクチャル)

14:45 シンポジウム

「天命はなお反転する 人間再生へ」

パネリスト



河本英夫 (東洋大学文学部教授)

1953年鳥取県生まれ。東京大学教養学部卒業、同大学大学院理学研究科博士課程修了。東洋大学助教授を経て1996年より同教授。日本におけるオートポイエシス研究の第一人者であり、近年は認知神経リハにも携わる。



花村誠一 (東京福祉大学福祉学部教授)

1947年生まれ。1972年東京医科歯科大学医学部卒業。正慶会栗田病院精神科医師、東京医科歯科大学神経精神医学教室助手、自治医科大学精神医学教室講師、マールブルク大学精神医学教室客員研究員等を経て、'93年 東京医科歯科大学医学部講師、2001年同大学大学院精神行動医学分科助教授、2002年より東京福祉大学社会福祉学部教授。



池上高志 (東京大学大学院教授)

1961年長野県生まれ。小中高と名古屋で過ごし、1984年東京大学理学部物理学科卒業。1989年同大学大学院理学系研究科博士課程修了。現在は東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 広域システム科学系教授として教鞭を執る傍ら、複雑系科学研究者として、アートとサイエンスの領域を繋ぐ活動も精力的に行う。音楽家、渋谷慶一郎とのプロジェクト「第三項音楽」や、写真家、新津保建秀とのプロジェクト「MTM」など、その活動は多岐にわたる。

16:00 総合討論

司会:稲垣論 (東洋大学)、本間桃世 (荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所 代表)

17:15 映像舞台作品上演

『モア・ディベロプメントー追悼人見眞理』

どのような生であれ、自らを越えていくための揺らぎがある。その揺らぎに寄り添うようにしてだけリハビリテーションの臨床は組み立てられる。そのような臨床を生きた理学療法士、故人見眞理に捧げる意を込めた映像舞台作品である。

出演者 岩崎正子 (都立多摩総合医療センター、理学療法士)
池田由美 (首都大学東京健康福祉学部准教授、理学療法士)
稲垣 論 (神経現象学リハビリテーション総合研究センター、特別研究員)

18:15 閉会のことば

荒川修作+マドリン・ギンズとは



荒川修作は1936年生まれ。50年代後半より美術家として活動。61年渡米、翌年より公私にわたるパートナーのマドリン・ギンズ (1941年生まれ) と共にニューヨークを拠点に共同制作を始める。60年代よりヨーロッパ各国、北・南米、日本など世界中の美術館、ギャラリー、国際美術展等で展覧会を開催。1970年ヴェネツィア・ビエンナーレにて発表された「意味のメカニズム」は現在も進行中の荒川+ギンズの代表的なプロジェクトである。80年代より身体を中心とした建築の世界を創作の場として展開、代表作に養老天命反転地 (95年)、三鷹天命反転住宅In Memory of Helen Keller (2005年) などがある。2人の活動は建築・芸術分野のみならず、生命科学、物理学、哲学、医学などの学術者との交流も深い。荒川+ギンズをめぐる国際カンファレンスはフランス、アメリカ、オーストリアを舞台に過去3回開催されている。2010年荒川没後はギンズが精力的に「手続きを踏んだ建築」を提唱し続けている。

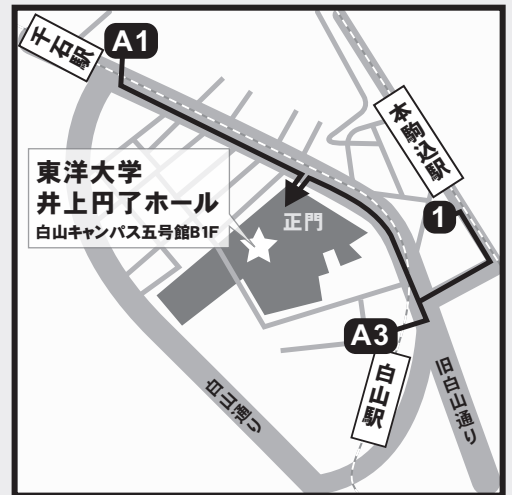
参加お申込み方法

どなたでもご参加いただけます。

完全予約制ではありませんが、お席の関係上事前予約をお勧めいたします。お名前、参加人数、ご連絡先 (Email、Fax等) を下記メールアドレスまでお送りください。

MAIL: ml-arakawa@toyo.jp

アクセスマップ



都営地下鉄三田線「白山」駅 (A3出口) から徒歩5分
東京メトロ南北線「本駒込」駅 (1番出口) から徒歩5分
都営地下鉄三田線「千石」駅 (A1出口) から徒歩8分

お問合せ

東洋大学「エコ・フィロソフィ」
学際研究イニシアティブ

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
MAIL: ml.tieph-office@toyo.jp
TEL: 03-3945-7534

主催 「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ (TIEPh)
共催 神経現象学リハビリテーション総合研究センター ABRF, Inc. (荒川+ギンズ東京事務所)

<http://tieph.toyo.ac.jp/>



ABRF, Inc.

特別展示

『AIR TUNNEL』大崎晴地 (美術家)

人と人との間は新しい環境のなかでどのような夢を見るのか。動くことで空間が流動し、相互に見えないコミュニケーションが生まれる体験型作品の展示。